



令和5年5月11日

各 位

会 社 名 ジョルダン株式会社
代表者名 代表取締役社長 佐藤 俊和
(コード : 3710、東証スタンダード市場)
問合せ先 執行役員経営企画室長 岩田 一輝
(TEL. 03-5369-4051)

**特別損失（減損損失）の計上、
第2四半期業績予想と実績との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ**

当社は、令和5年9月期第2四半期連結累計期間（令和4年10月1日～令和5年3月31日）において、特別損失（減損損失）を計上するとともに、令和4年11月11日の令和4年9月期決算発表時に公表いたしました令和5年9月期第2四半期連結累計期間（令和4年10月1日～令和5年3月31日）の業績予想と本日公表の実績に差異が生じたので、お知らせいたします。

また最近の業績の動向等を踏まえ、令和5年9月期通期（令和4年10月1日～令和5年9月30日）の業績予想を修正することとしましたので、併せてお知らせいたします。

1. 特別損失（減損損失）の内容

当社は、令和4年12月5日に株式会社エアーズの株式を取得し、連結子会社といたしました。その際は、将来の利益計画等を基に期待される超過収益力等を連結上ののれんとして計上いたしておりました。

この度、同社の直近の経営成績が当初の利益計画を大きく下回っていること、及びそれらを踏まえた今後の利益見通しについて確実性の高い見通しを立てることが困難なこと等を勘案し、当該連結上ののれんについて 191,933 千円、並びに同社の保有する有形固定資産及び無形固定資産について 39,315 千円の合計 231,249 千円を減損損失として特別損失に計上いたしました。

2. 令和5年9月期第2四半期連結累計期間（令和4年10月1日～令和5年3月31日）の業績予想と実績との差異

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり連結四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	1,450	90	100	50	9.80
今回実績（B）	1,628	59	16	△237	△46.51
増減額（B－A）	178	△30	△83	△287	－
増減率（％）	12.3	△33.5	△83.1	－	－
（参考）前第2四半期連結実績 （令和4年9月期第2四半期）	1,374	7	105	50	9.82

（注）1株当たり連結四半期純利益につきましては、第1四半期連結会計期間における自己株式取得に伴う期中平均株式数の変動を反映しております。

3. 第2四半期連結累計期間の業績予想と実績との差異の理由

連結売上高につきましては、乗換案内事業における法人向けの売上高が当初の想定を大きく上回ったことに加え、株式会社エアーズを連結子会社化したこと等により、予想を上回りました。連結営業利益につきましては、乗換案内事業における法人向けの売上高に対応して売上原価も想定を上回ったことや、株式会社エアーズにおける営業損失の発生等の影響により、予想を下回りました。連結経常利益につきましては、この影響に加え、為替差損を計上したこと等により、予想を大きく下回りました。親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、この影響に加え、「1. 特別損失（減損損失）の内容」に記載のとおり減損損失を計上したこと等により、予想を大きく下回り、親会社株主に帰属する四半期純損失を計上することとなりました。

4. 令和5年9月期通期（令和4年10月1日～令和5年9月30日）の業績予想数値の修正

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 連結当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	2,800	130	150	80	15.68
今回発表予想（B）	3,000	110	130	△90	△17.64
増減額（B－A）	20	△20	△20	△170	－
増減率（％）	7.1	△15.4	△13.3	－	－
（参考）前期連結実績 （令和4年9月期）	2,651	△35	196	65	12.81

（注）1株当たり連結当期純利益につきましては、第1四半期連結会計期間における自己株式取得に伴う期中平均株式数の変動を反映しております。

5. 通期業績予想の修正の理由

第2四半期連結累計期間の実績に加え、直近の受注状況や第3四半期連結会計期間以降の施策の実施見通し等を考慮し、また、昨日令和5年5月10日に発表いたしました「子会社における固定資産の譲渡及び固定資産売却益の計上に関するお知らせ」に記載のとおり固定資産売却益を計上する見込であること等も踏まえ、上記のとおり修正いたします。

（注）業績予想につきましては、本資料の公表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上